

# 「宮城県歯科医師会のタバコ対策への取り組み状況」

一般社団法人宮城県歯科医師会  
会長 細谷仁憲

- 1 宮城県の禁煙推進に中核となって貢献されてきた日本禁煙推進医師  
歯科医師連盟・宮城支部（禁煙医師連盟・宮城支部）、NPO法人禁  
煙みやぎ、世界禁煙デー・宮城フォーラム、タバコ対策ネットワーク・  
みやぎ・せんだい連絡会議、みやぎ禁煙指導研究会等への対応状況
- 2 パンフレット、リーフレット等を通じての本会会員、歯科受診患者、  
住民等への対応状況
- 3 調査・研究状況
- 4 本会立宮城高等歯科衛生士学院の取り組み状況
- 5 宮城県歯科医師会館の取り組み状況
- 6 今後の取り組み

# 1 宮城県の禁煙推進に中核となって貢献されてきた団体、イベント、会議等への対応状況

## 1) 日本禁煙推進医師歯科医師連盟・宮城支部（以下、禁煙医師連盟・宮城支部）、NPO法人禁煙みやぎへの対応

（1994年[H6]9月 禁煙医師連盟・宮城支部設立⇒2008[H20]年1月 NPO法人禁煙みやぎ設立移行）

### ① 「タクシーの全面禁煙導入について（要望書）」

（NPO法人禁煙みやぎ から(社)宮城県タクシー協会に対して）  
2009[H21]年5月31日 他の7団体と共に賛同団体となる

### ② NPO法人禁煙みやぎ総会

第3回（2010[H22]年9月10日開催）から宮城県歯科医師会参加（賛助会員）

### ③ 「NPO法人禁煙みやぎ20周年記念誌20年の歩み」発刊（2015[H27]年2月） 細谷仁憲会長祝辞寄稿

### ④ 「NPO法人禁煙みやぎ20周年記念誌20年の歩み」発行祝賀会及び山本理事長公衆衛生功労賞受賞祝賀会（2015[H27]年12月） 根本充康常務理事出席

# 1 宮城県の禁煙推進に中核となって貢献されてきた団体、イベント、会議等への対応状況

## 2) 世界禁煙デー・宮城フォーラムへの対応

(1998[S63]年4月7日 第1回世界禁煙デー (WHOが設立40周年にあたり定めた。) その後5月31日が世界禁煙デーと改められた。)

- ① 第2回 (1996[H8]年) から後援団体に参画
- ② 第8回 (2002[H14]年)、第9回 (2003[H15]年)、第10回 (2004[H15]年) の会場として、宮城県歯科医師会館を提供
- ③ 第13回 (2007[H19]年) において藤原俊明常務理事が「**歯と健康に関する最新情報-喫煙の影響-**」をポスタープレゼンテーション
- ④ 第21回 (2015[H27]年) において、シンポジウム「宮城県に受動喫煙防止条例を作るために」の中で根本充康常務理事がシンポジストとして「**歯科領域からタバコの害を考える**」を講演
- ⑤ 第25回 (2019[R元]年) において、シンポジウム「禁煙宣言をオール宮城で！」の中で細谷仁憲会長がシンポジストとして「**宮城県歯科医師会のタバコ対策への取り組み状況**」を講演

# 1 宮城県の禁煙推進に中核となって貢献されてきた団体、イベント、会議等への対応状況

## 3) タバコ対策ネットワーク・みやぎ・せんだい連絡会議への対応

(2002[H14]年2月 設立)

① 設立時から参加団体となる。

(参加団体は禁煙医師連盟・宮城支部の働きかけにより、宮城県医師会、**宮城県歯科医師会**、宮城県薬剤師会、宮城県看護協会、仙台市医師会、仙台歯科医師会、仙台市薬剤師会の7つの医療団体、宮城県保健福祉部健康推進課、仙台市健康福祉局保健衛生部健康増進課の2つの行政及び禁煙医師連盟・宮城支部の10団体、後に宮城県栄養士会、NPO法人ふあるま・ねっと・みやぎが加入)

② 2006[H18]年、2010[H22]年以降は、毎年本会地域保健部会（地域保健医療委員会）から出席。必要に応じて「宮歯会報」に報告を掲載。各種イベントにパネル展示、禁煙について講演。

## 4) 東北禁煙指導研究会 ⇒ みやぎ禁煙指導研修会への対応

(2003[H15]年4月 東北禁煙指導研究会（禁煙指導に関する知識や技術の向上を目的）に発足 → 2016[H28]年11月 みやぎ禁煙指導研修会（禁煙指導や禁煙治療の普及を目的）に改称)

① 研究会発足時より共催 研修会に改称時から名義後援

② 研修会に改称時から根本充康常務理事が出席

# 1 宮城県の禁煙推進に中核となって貢献されてきた団体、イベント、会議等への対応状況

## 5) 第6回日本禁煙学会学術総会への対応

(2012[H24]年4月7・8日開催、会場 仙台国際センター、主催 日本禁煙学会、NPO法人禁煙みやぎ、学術総会会長 山本蒔子(禁煙みやぎ理事長))

- ① 寄付金で支援
- ② 根本充康地域保健委員長出席
- ③ 全員懇親会 細谷仁憲会長出席、祝辞 理事会に報告
- ④ 第6回日本禁煙学会実行員会田浦勝彦先生からの寄稿を「宮歯会報」に掲載  
(「宮歯会報」6,25-27,2012、7,29-31,2012)

## 6) 健康日本21推進全国連絡協議会平成30年度第1回分科会「医科歯科連携による受動喫煙防止と禁煙対策」への対応

(2018[H30]年8月1日開催、会場 日本歯科医師会館、主催 健康日本21推進全国連絡協議会・(公社)日本歯科医師会)

- ① 根本充康常務理事出席 理事会に報告、「宮歯会報」に報告を掲載

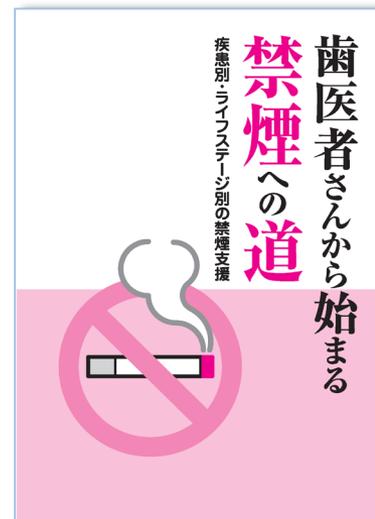
## 2 パンフレット・リーフレット等を通じての会員、歯科受診患者、住民等への対応状況

1) 日本歯科医師会 発行・監修 (2008[H20]年)

「**歯医者さんから始まる禁煙への道**

－疾患別・ライフステージ別の禁煙支援－

(パンフレット) : 対象 会員



2) 8020推進財団発行 (2014[H26]年)

「**禁煙支援** －生活歯援プログラムを活用した  
歯科からのアプローチ－

(パンフレット) : 対象 会員



### 3 主な調査・研究状況

#### 1) 「**歯と健康に関する最新情報—喫煙の影響—**」

地域保健医療委員会 藤原俊明常務理事

第13回（2007[H19]年）世界禁煙デー・宮城フォーラムにおいてポスタープレゼンテーション

**歯と健康に関する最新情報**

**—喫煙の影響—**

宮城県歯科医師会  
〔地域保健医療委員会〕

# 喫煙状況と歯科治療との関連

表 1. 喫煙状況と歯科医療費・歯科受診日数〔平成17年度〕

変数	喫煙状況		
	喫煙者	非喫煙者	不明
人数	6,093	25,206	249
歯科医療費（円）*	17,059 †	15,015	9,947 †
（標準誤差）	(241)	(111)	(1,088)
歯科受診日数（日）*	2.6 †	2.5	1.8 †
（標準誤差）	(0.0)	(0.0)	(0.1)

\*：保有歯数・性・年齢で補正

†：非喫煙者と比べて有意差あり

表 2. 喫煙状況と歯科医療費・歯科受診日数〔平成18年度〕

変数	喫煙状況			
	喫煙者	非喫煙者	以前喫煙者	不明
人数	4,909	17,290	3,796	476
歯科医療費（円）*	15,951 †	15,076	15,345	10,658 †
（標準誤差）	(267)	(141)	(301)	(786)
歯科受診日数（日）*	2.6 †	2.5	2.6	2.1 †
（標準誤差）	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.1)

\*：保有歯数・性・年齢で補正

†：非喫煙者と比べて有意差あり

# 喫煙状況と歯科治療との関連

表3. 歯数の変化〔平成17年度→平成18年度〕

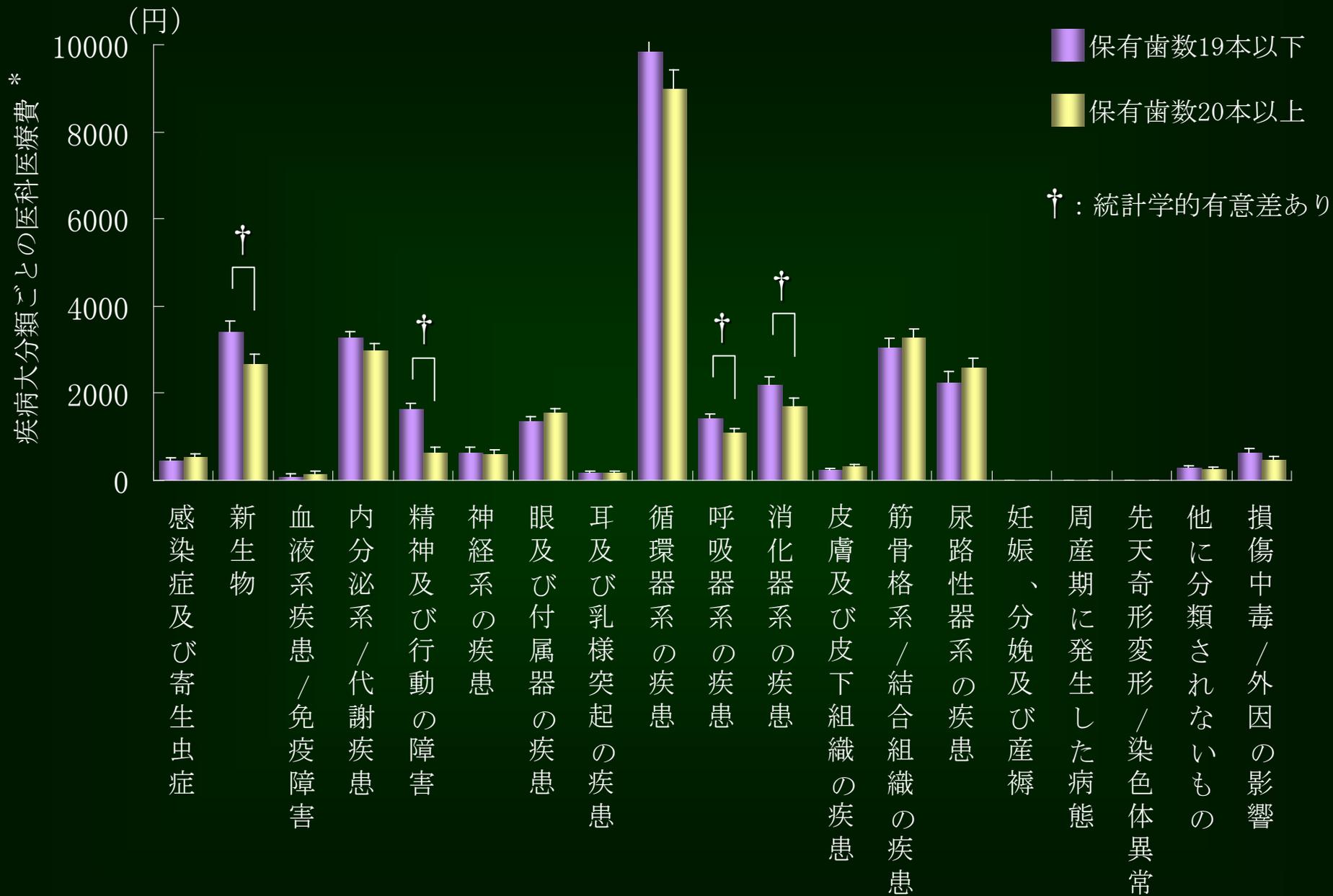
変数	保有歯数の変化				合計
	3本以上減	2本減	1本減	減少なし	
人数	313	275	670	2,639	3,898
平均年齢※（歳）	70.6	71.2	70.7	70.6	70.7
（標準偏差）	(7.5)	(7.1)	(7.7)	(7.6)	(7.6)
男性（%）	48.6	50.2	44.0	44.1	44.9
現在喫煙者（%）	21.1	17.8	16.6	12.8	14.5

※：平成17年5月末現在の年齢

表1・2・・・喫煙者群の歯科医療費、歯科受診日数は、非喫煙者群に比べて高い値を示した。

表3・・・保有歯数が多く減少するほど現在喫煙者の割合が多くなる傾向が認められた。

# 表4. 疾病ごとの保有歯数と医科医療費の関係



▶ 消化器系の疾患、呼吸器系の疾患、新生物、精神及び行動の障害で医科医療費に明らかな差を認める

# まとめ

これまで喫煙が口腔疾患に及ぼす影響については様々な報告がありましたが、この研究から喫煙の影響が歯科医療費・歯科受診日数の差としても認められることが明らかとなりました(表1・2)。

また何らかの原因で歯を失った人を調べると、歯数が多く減少するほど、喫煙者の割合が多くなる傾向があることが判明しました(表3)。

さらに歯数と特定の疾病に対する医療費には関連性が認められました(表4)。

# おわりに

喫煙は歯を失う原因となり、それに伴い歯科治療頻度の増大を招くことが明らかとなりつつあります。

また表4からわかるように歯が少なくなるとある種の病気に罹りやすくなる可能性があるようです。

永久歯は一度失うと二度と生えてくることはありません。喫煙は歯の寿命を短かくし、さらには大きな病気の原因となりうるという認識を持ち、かけがえのない歯を守るという意識を持っていたいただければと思います。

最後に本ポスターを作成するにあたり、データを提供していただきました宮城県国民健康保険団体連合会および東北大学大学院歯学研究科・加齢歯科学分野の渡辺誠教授、岩松正明先生ならびに関係スタッフ各位に厚く感謝申し上げます。

### 3 主な調査・研究状況

#### 2) 「**歯科領域からタバコの害を考える**」

地域保健部会 根本充康常務理事

第21回（2015[H27]年）世界禁煙デー・宮城フォーラムにおいてシンポジウム「宮城県に受動喫煙防止条例を作るために」の中で講演



歯科領域から  
タバコの害を考える

宮城県歯科医師会地域保健部会  
根本 充康

## 喫煙の口腔への影響 口腔としての特色

- ・ 歯肉辺縁部の線維性の肥厚
- ・ 重症度と比較して、歯肉の発赤腫脹、浮腫が軽度
- ・ ・ プラーク、歯石の沈着量と病態が一致しない
- ・ 同年代の非喫煙者の歯周炎と比較して病態が重度
- ・ 歯面の着色
- ・ 歯肉のメラニン色素沈着

喫煙を続けている人は、歯周病にかかりやすい、悪化しやすい、治療しても治りにくいということがわかっています。

その理由は？

1. タールが付着すると歯垢（プラーク）や歯石がつきやすい
2. 唾液が減り口の中が乾燥して再石灰化が行われにくい
3. ニコチンが血管を収縮させ酸素や栄養分の供給が不十分
4. ニコチンが免疫細胞の働きを抑え抵抗力も落ちてくる
5. 喫煙によってビタミンCが消費され手術後も治りにくい

# 歯周病になりやすい全身の危険因子



タバコ



糖尿病



思春期・妊娠・更年期



ストレス



不摂生な生活

## その他

- 骨粗鬆症
- 加 齢
- 薬の副作用  
(抗てんかん薬・  
高血圧の薬・  
自己免疫疾患の薬)



家族内喫煙者あり



家族内喫煙者なし

## まとめ

- ▶ 「歯科で禁煙支援！」想定している人は少ない。
- ▶ 禁煙支援により 歯周病の改善 口腔がんのリスク減少 味覚は正常 となる。
- ▶ 口腔以外の臓器も同様に危険因子がなくなることで色々な病気のリスクが減少。
- ▶ 不特定多数の人々の受動喫煙もなくなる。

タバコから「大切な人だけでなく、その周囲を守る」ため、  
歯科からも積極的に禁煙支援をはじめます。

## 4 宮城高等歯科衛生士学院（本会立）の取り組み状況

- 1) 2002[H14]年から毎年1回、1年生に対して山本蒔子先生（NPO法人禁煙みやぎ理事長）が「喫煙（喫煙の及ぼす影響）」について講義（90分）
- 2) 2002[H14]年から毎年、世界禁煙デー・宮城フォーラムに学生約10名がボランティアとして参加

## 5 宮城県歯科医師会館の取り組み状況

- 1) 2000[H12]年 現会館へ移転を機会に**分煙器を設置**（1F、2F、4F）
- 2) 2005[H17]年6月 理事会において**会館全面禁煙**を決議



翌日、会館内の他団体（仙台歯科医師会、宮城県歯科医師国保組合、宮城高等歯科衛生士学院等）へ「会館全面禁煙へのご協力願い」を発簡

## 6 今後の取り組み

- 2018[H30]年7月に健康増進法の一部改正する法律が成立し、「望まない受動喫煙」をなくすこと等マナーからルールになった。
- 宮城県においては、2013[H25]年3月に「第2次みやぎ21健康プラン」において「たばこ」分野に対しても重点的に取り組んでいくこととし、「めざせ！受動喫煙ゼロ」をスローガンに掲げるとともに、受動喫煙防止に関する数値目標を設定し、ガイドラインを作成した。
- 2020[R2]年に東京オリンピック・パラリンピック開催を迎える。
- 「第25回世界禁煙デー・宮城フォーラム」のテーマが「禁煙宣言はオール宮城で！」とされた。

## 6 今後の取り組み

以上の情勢を鑑み、宮城県歯科医師会は、今後、会員、歯科受診患者等への喫煙に関するアンケートを行い、会員の喫煙、会員歯科医療機関の敷地内全面禁煙実施、歯科受診患者の喫煙、会員の歯科医療機関における禁煙指導実施等の現状を把握し、従来よりも積極的に会員をはじめ歯科医療従事者、歯科受診患者の「禁煙」、「受動喫煙防止」の意識を高め、医科疾患、歯科疾患の発症、重症化予防を図り、健康の保持・増進、健康寿命の延々に寄与すべく取り組んでいきたい。